

# 美術科授業案

日時 平成29年10月27日(金) 公開授業Ⅱ  
生徒 3年C組 男子12名 女子20名  
授業者 更科結希  
授業場 中学校美術室

## 1 題材名 「自分の『時間結晶』のかたち」 [A表現(1)(3)・B鑑賞]

### 2 題材の目標

中学校生活を振り返り、自分の経験してきたことやこれまでの想いから主題を生み出し、感情を十分取り入れながら、形の構想を練ることができるようにする。

意図と形を結びつけていくために、他者との対話から再考を重ね、形づくることができるよう、様々な抽象形と感情との関連に気付かせ、検討させていく。また、用具を適切に扱い、切る、彫る、削る、つけるなどから適切なものを選び、最適な表現につなげられるようにする。

### 3 題材について

#### (1) 題材観

美術科において、感性や想像力などを豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞するなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深めることに更なる充実が求められている。本題材では、形の表現とイメージや感情との関連について実感を伴いながら理解できるように、表現と鑑賞を相互に関連させ、共通事項の「形や色彩、材料、光などの性質や、それがもたらす感情を理解する」といった造形的な視点で対象を捉えることを通し、資質・能力の獲得につなげていく。

表現において、本題材における主題は、生徒がこれまでの中学校生活の時間の経過を元に考えることとなる。学習指導要領において、形なき自己の内面や感情などから感じ取り考えたりすることによって生まれる主題を生み出すことの指導が重要とされている。また、それを元に単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることが大切である。こうした理解を、生徒の感性や想像力に実感的に働きかける題材構成として、表現と鑑賞の関連は欠かせない。

本題材は、中学3年の生徒の心情を主題として、手のひらで握ることができる抽象的な形で表現する。彫刻の良さは、手の感触でその実態を感じ取ることができるところにある。素材は、恒久性を持った水性樹脂で金属加工を施す。本学年では、金属の質感や光沢を活かした制作は初めてであることから、感情の表現をする上で、効果的な表現の工夫につなげていきたいと考える。

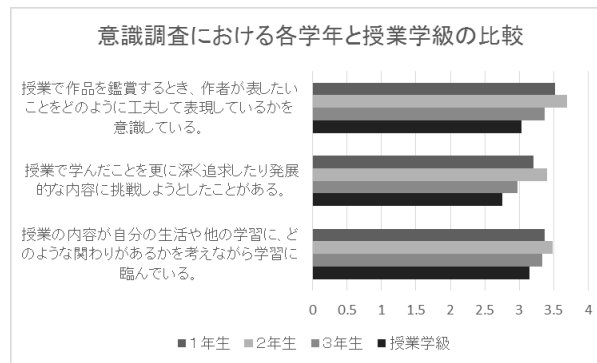
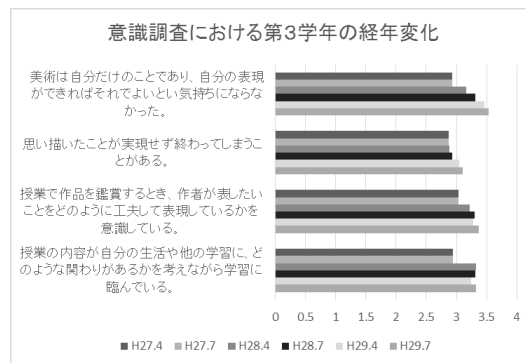
#### (2) 目指す児童・生徒像

図画工作・美術科が目指す生徒像は「表したい想いの実現に向け、試行や再考を繰り返し、創造活動の価値を見いだすことができる」姿である。本題材においては、対象や事象を捉える造形的な視点について実感的な理解を深め、感性や想像力を働かせて造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、創造的な表現の構想を練ることを目指している。そして、価値や心情を感じ取る感性を培い、美術文化の継承と創造への関心を持つために、他者と協力し、思い描く表現の実現のための試行を繰り返し、創

造活動の価値を見いだすことにつなげたいと考える。

### 美術の学習に関する意識調査における

美術科は、感性や想像力をはたらかせ、新しい価値を生み出すために、実体験を通して学ぶことができる教科であるからこそ、新たに学習することとこれまでの学習や生活経験との関連を十分に想起させながら学習を進めていく必要があると考える。



### (3) 指導観

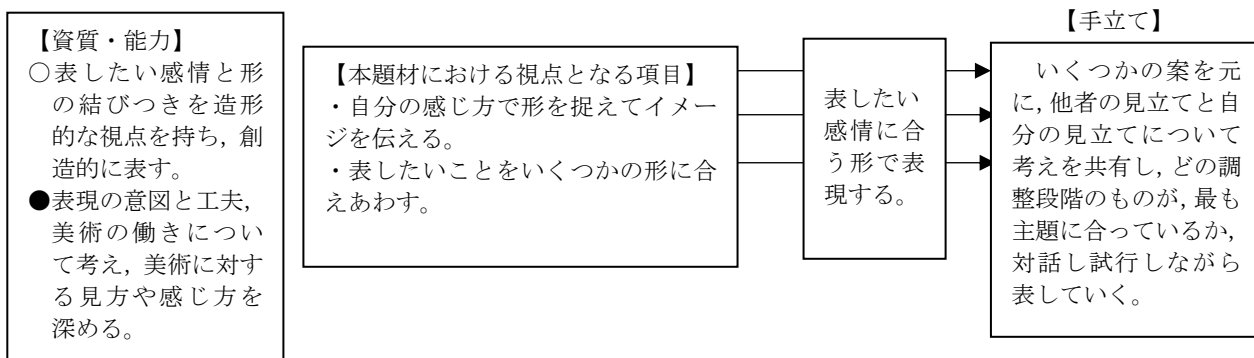
本題材は、自分の感情や考えを主題に形を形成していくため、イメージを細分化し、形と結びつけていく構想の時間が重要となる。自分の考えを形に置き換えていく

#### 本題材における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

美術科における見方・考え方は、感性や想像力を働かせて、形や色彩などの造形的な視点で、対象やイメージを捉えるなどして、自己や他者との関わりや、生活、社会、文化などとの多様な関係の中で、心豊かに生きることと美術との関わりについて自分としての意味や価値をつくりだすことである。

本題材においては、造形的な視点として、表したいイメージと形の違いに着目し、主題を基に自己の想いをマスターモデルに投影し表現していく中で見方・考え方を高めていく。これまでの学習で培ったイメージと色の違いや大まかな形状との関連を活用しながら、見方・考え方を活用して鑑賞教材を捉えれば、より具体的に自己の感情を形に置き換え表すことができると思う。

手立ての具体としては、個々の感情を元にした主題を表すために、いくつかの案を元に他者の見立てと自分の見立てについて考えを共有する。その際に、今回新たに使う素材の質感や手のひらで握ることを想定して、どの調整していくことが、最適な表現に結びつくか、試行しながら決定していく場を設定していく。形とイメージだけに留まらず、自分にとって必要な形を生み出すことや、質感などを含めた見方を働かせ、自分と美術の関係について考えを深めていくことで「見方・考え方」の高まりや拡充を目指していく。



#### 4 評価規準

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞
<p>ア 主題などを基に、主体的に創造的な構成を工夫して構想を練ろうとしている。</p> <p>イ 材料や用具の特性などを活かし、見通しをもって表現しようとしている。</p>	<p>ア 主題などを基に想像力を働かせ、形や質感の効果を行かして、省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫して、心豊かな表現の構想を練っている。</p>	<p>ア 表したいイメージを持ちながら、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。</p>	<p>ア 造形的なよさや美しさ、表現の工夫について思いや考えを説明し合い対象の見方や感じ方を広げ鑑賞している。</p>

#### 5 学びの過程のデザイン（全6時間）

下支えする主体的な学び	学 習 活 動	手 立 て
<p>表現を支える鑑賞教材を取り入れる。また、新たな素材と出会い、金属の質感の持つ良さについて学ぶ A</p>	<p>1 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校生活を振り返り、自分の3年間を表すための主題を生み出す。</li> <li>・ 自然物の形から、どのような感情表現につながるか、対話を通してイメージの共有をする。</li> <li>・ 手のひらに握りしめたいくなる、一つの形を生み出す意欲を高める。</li> </ul> <p style="text-align: center;">関ア 鑑ア</p>	
	<p>2 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の3年間に抱いた感情を、いくつかのマケットに表す。</li> </ul> <p style="text-align: center;">関イ 発ア</p>	<p>【作品や他者との対話】 イメージと形を関係づける意見を共有する。具体的な場面を想起して、互いのイメージの共有を図る。 <b>I</b></p>
	<p>3 時間目【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制作したマケットをもとに、マスターモデルの検討をする。</li> <li>・ 検討をもとに、マスターモデルを制作する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">発ア 技ア</p>	<p>【作品との対話】 マケットから、他者の見方を知り、自己の思い描いたイメージとのズレや共通点を踏まえ、マスターモデルを調整していく。 <b>I・II</b></p>
	<p>4/5 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスターモデルで雌型を作る。雌型を切断し、マスターモデルを取り除く。JESMONITEとメタルファイラーを混ぜ、雌型に流し込む。</li> <li>・ 雌型から、JESMONITEを取り外し、スチールウールを使い、研磨する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">関イ 技ア</p>	
	<p>6 時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現した作品を鑑賞し、美術作品の持つ価値や作者の意図について理解を深める。</li> </ul> <p style="text-align: center;">鑑ア</p>	
<p>主題と表現方法の工夫について照らし合わせながら考える。 B</p>		
<p>形の変容を記録し、前時の形態からの変化について、表したいことと照らし合わせて考える。 B</p>		

6 本時について (3/6 時間目)

(1) 本時の目標

自己の表したい感情を含んだ主題と形を結びつけていくために、いくつかのモデルを元に、他者と自己の形に対する見立てから再考し、最も表現したい形を表すことができる。

(2) 本時における研究の視点

本時では、イメージと形の結びつきを考えていく中で見方・考え方を拡充していく。そのために、自己と他者が考える見立ての違いや共通する視点について対話を通して気づくことができるよう、視点の共有化を図り形の調整する場面を設定する。その中で、素材の質感や自分の手で握る感覚にも気付かせる事によって、「見方・考え方」の高まりを目指していく。

(4) 本時の展開 (○発問, △補助発問, □指示・説明)

学習活動 (下位目標)	主な働きかけ・ <b>手立て</b>	【評価方法】 個に応じた指導
<p>1 自分が表したい表現について確認することができる。</p> <p>・部活での3年間の道のり ・中学校生活3年間の自分の苦勞したこと ・友達と過ごした3年間</p>	<p>○どのようなテーマで、自分の今の感情を表現したいと考えましたか。</p> <p>□自分のマケットの意図とテーマとの関連について確認しよう。 <b>A</b></p>	<p>【発言・ワークシート】</p>
<p>自分の手で、「自分のこれまでの時間」を握りしめたくなる形を考えよう。</p>		
<p>2 仲間のマケットを見て、どのようなイメージを持つか考えてワークシートに書くことができる。</p> <p>【予想される生徒の発言】 形状がとげとげしいので、何か良くないことがあったのではないかな 緩やかな曲面があり、穏やかな日々だったのではないかな 深くあいた穴は、自分の心の中を表したのではないかな</p>	<p>□仲間のマケットを鑑賞し、どのような意図を持ち表現したものか考えてみよう。 <b>手立て I</b></p> <p>・実際の形状=どのような意味を持たせたかを共有しながら、表現方法の多様性に気付かせる。(自分のアイデアの中になかった要素について理解ができるように)</p>	<p>▲これまで、記録してきた造形的な視点について振り返りさせながら、理由を記述できるように指示していく</p>
<p>同じイメージ=別の形状 同じ形状=別のイメージ イメージの具体を探っていくと若干の違いがあることによって形状は異なる</p>		<p>他者との対話 作品との対話 【発言・作品】</p>
<p>3 マケットと他者の意見を見比べながら、自分の考えを最も表現できるマスターモデルをつくることができる。</p> <p>【実際の制作の中で見えること】 自分のテーマを具体化する必要がある別の形を取り入れてみよう 形状を強調・省略させてみよう</p>	<p>○自分のこれまでの時間を表すためには、どのような形を採用して表したら良いだろうか。 <b>手立て II</b></p> <p>△自分の意図と異なる意見は、なぜ生まれたのか考えてみよう。</p> <p>△今回表現する素材の質感は、形にどのような影響を与えるだろうか。</p> <p>□マケットの形から、残したいフォルムを決め、マスターモデルを制作しよう。 <b>B</b></p>	<p>作品との対話 【作品】</p>
<p>4 次時への課題となることをワークシートに記入する。</p>	<p>□次の時間は、マスターモデルから雌型を取ります。今日の時間で得られた意見を元に、自分の思い描くテーマと形の結びつきについて意見をまとめましょう。</p>	